

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 総合学科高校の特色を活かし、魅力ある授業の充実と生徒の進路実現で生徒の学び力と自信を育む学校。
- 健全な市民を育成し、地域や社会を活性化する有能な人材を輩出する、地域から信頼される学校。
- 地域との連携、地域への貢献で生徒の自己有用感、自己効力感の育成を実践する学校。

＜本校の教育目標＞

生徒が生きる力と自信を高め、目標に向け前向きに努力する意識と力を育成する

- 1 生徒が学ぶ喜びと学び力を高め、希望する進路を実現する力を育成する
- 2 豊かな心と人権意識を身につけ、将来、社会や地域に貢献できる生徒を育成する
- 3 共生推進教室を軸に「ともに学び、ともに育つ」インクルーシブ教育を実践する
- 4 学校と保護者・地域が連携し、ともに生徒の成長を支援する開かれた学校として府民から信頼される学校づくりを行う

2 中期的目標

令和4年度を目標に、更なる本校の取組みの充実をめざすための3年間を見据えた中期目標とする。

生徒が生きる力と自信を高め、目標に向け前向きに努力する意識と力を育成する

1. 生徒が学ぶ喜びと学び力を高め、希望する進路を実現する力を育成する

(1) 魅力ある系列・授業で生徒自身の将来の可能性との出会い

「わかる授業」を通じて基礎学力を向上させ、生徒の高校生活や進路への自信を育む

① 総合学科の特色を活かした魅力ある授業づくりで生徒の学習意欲、学び力の向上と進路実現へ向けての実力の育成

ア 各教科や系列のさらなる特性を生かした魅力ある授業で生徒の学び力と自信を育む。

・地域連携、外部講師、資格取得など生徒の学習面での伸びしろを引き出す取り組みを行う。

イ きめ細かい指導で生徒の学習への意欲、習慣、興味・関心の向上で進路実現に必要な基礎学力、学び力の向上

ウ 教員の教材研究・研究授業の活性化、授業力向上のための校内研修、授業アンケートの活用、公開授業、教員同士の授業観察等により教員の授業力の向上をめざす。

※生徒向け学校教育自己診断における学習指導の肯定感の平均を向上させ、令和4年度には60%以上の肯定感を維持する。

(H29 59.5% H30 61.5% R1 65.8%)

(2) 入学から卒業まで高校生活3年間を見越したキャリア教育の実践…生徒の多様な進路実現への支援

① 中退率の減少 …生徒の基本的な生活習慣や中高連携、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの活用等を通して中退防止に努める。

※今後3年間で中退率府平均2%以下(H29 2.7% H30 2.3% R1 2.5%)を維持する。

② 希望の進路の実現

ア 進路未決定者の減少…生徒の進路意識を高め、進路未決定率8%以下の維持。

イ 就職決定者の増加 …就職内定率100%(H29 98.6% H30 98.2% R1 100%)を毎年維持する。

ウ 大学進学の実現 …指定校推薦、AO入試等生徒への入試情報の提供で大学入学希望者の希望大学への入学支援の充実。

2. 豊かな心と人権意識を身につけ、将来、社会や地域に貢献できる生徒を育成する

(1) 公共心と規律性を備えた樟風生を育てる …取組みの重点項目、①授業規律②欠席・遅刻指導③服装・頭髪指導④あいさつの励行

※日常的な挨拶励行運動で「あいさつの樟風生」の気風を育む。

(2) 生徒による学校の活性化で生徒の愛校心(帰属意識)の向上

① クラス活動の活性化…体育祭・文化祭等の行事や日々のホームルームを通じてクラス活動の活性化を行う。

※生徒向け学校教育自己診断において、「クラス活動は活発である」の肯定感の平均を令和4年度には60%以上を維持する。

(H29 57.1%、H30 56.6%、R1 60.8%)

② 生徒会活動の活性化…挨拶運動や学校行事の企画・運営、「生徒による学校活性化プロジェクト」など現在の生徒会執行部の活動を継続・強化していく。

※生徒向け学校教育自己診断において、「自主活動に関する項目」の肯定感の平均を向上させ、令和4年度には肯定感60%以上をめざす。

(H29 58.4%、H30 53.7%、R1 56.2%)

③ クラブ活動の活性化…クラブ加入率を毎年向上させ、令和4年度には、50%以上をめざす。(H29 40.2%、H30 46.1%、R1 45%)

(3) 地域連携・地域貢献で生徒の自己有用感、自己効力感の育成 …幼・保・小・中・大の各学校や、自治体関係機関、地域商店街などと連携した特色ある学習の取組みや生徒会活動を通じ地域貢献を推し進め、生徒の自己有用感や自己効力感、自他への肯定感を育むとともに、地域から信頼される学校をめざす。

※生徒向け学校教育自己診断において、「地域連携に関する項目」の肯定感の平均を令和4年度には60%以上の肯定感をめざす。

(H29 54.6%、H30 56.5%、R1 51.2%)

(4) 人権教育の更なる充実 …障がい者理解、同和問題や在日外国人問題など人権HRを充実させることで生徒の人権意識を育み、豊かな心と人権感覚豊かな生徒の育成。

※生徒向け学校教育自己診断において、「人権教育」に関する肯定感の平均を毎年75%以上に維持する。

(H29 66.2%、H30 70.6%、R1 75.3%)

(5) 教育相談活動の充実…教育相談委員会、SSW委員会と学年の連携による一層の生徒の教育相談活動を推進するとともに、教育相談委員会、人権教育推進委員会といじめ防止委員会の連携によるいじめ防止に対する取組みの一層の充実を図る。

<p>3. 共生推進教室を軸に「ともに学び、ともに育つ」インクルーシブ教育を実践する</p> <p>(1) 共生推進教室でインクルーシブ教育を実践する …「ともに学び、ともに育つ」をコンセプトに学習活動や部活動、学校行事等においてインクルーシブ教育の更なる実践を推進する。</p> <p>※生徒向け学校教育自己診断において、「共生推進」に関する肯定感の平均を60%以上を維持する。(H29 62.2%、H30 65.9%、R1 66.5%)</p> <p>4. 学校と保護者・地域が連携し、ともに生徒の成長を支援する開かれた学校として府民から信頼される学校づくりを行う</p> <p>(1) 家庭・保護者との連携 …家庭との連携を密にするとともに、学校行事やPTA活動への保護者の参加率を高め、保護者と学校が協力し生徒を育てる校風をつくる。</p> <p>※保護者向け学校教育自己診断において、「PTA活動」に関する肯定感を令和4年度には60%以上を維持する。 (H29 41.0%、H30 44.8%、R1 66.5%)</p> <p>(2) 校内組織の連携と情報発信力の強化 …学校ホームページの充実、中高連携や学校説明会などの広報関係に力を入れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事や授業の様子、部活動などリアルタイムで「樟風ブログ」により発信する。 ・保護者メールの加入率の増加 令和元年度74.8%を令和4年度までに95%をめざす。 <p>5. 教員の働き方改革について</p> <p>府立学校において、教職員の長時間勤務の軽減に向けた働き方改革の促進として次の取組みを行う。</p> <p>(1) 全校一斉退庁日の設定・ノークラブデーの明確化</p> <p>(2) 時間外勤務の縮減と学校閉庁日の設定</p>
--

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和2年11月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【総論】</p> <p>○学校教育自己診断の提出率は、生徒は98.1%、保護者は78.4%、教職員は98%となっており、特に保護者の学校への関心の高さが伺える。</p> <p>○生徒においては、51項目のうち46項目で肯定感が増加している。3項目で10ポイント以上増加しており、生徒が学校生活を肯定的に捉えて過ごしていた様子が伺える。「全般」の項目でも「入学してよかった、学校で鍛えられている、自分のためになっている、学校(先生)を信頼している」が大幅に向上しており、日々の教員の生徒指導、学習指導への取組みが生徒の学校への信頼に繋がっていると考えられる。</p> <p>【学習指導】</p> <p>○生徒においては、8項目中7項目が増加し、平均も3.4%増加した。特に、「先生に質問しやすい」が66.1%と昨年度より6.0%増加しており、生徒一人ひとりに対する丁寧な指導の様子が伺える。「授業がわかりやすい、楽しい」「主体的な取組み」「授業規律」「学習評価」についても肯定感が大きく向上しており、生徒たちの学習環境が大きく向上していることがわかる。</p> <p>○保護者においては、ほぼ昨年同様高い評価を得ている。「懇談や通信」への肯定感が上昇しており、保護者メールや懇談などを通じて丁寧に生徒の学習状況や学校生活の様子を伝えていることが評価されている。</p> <p>○教職員においては、「参加体験型の学習など指導方法の工夫・改善」「問題解決的な学習指導」「評価の在り方について話し合う機会がある」がそれぞれ10ポイント程度向上している。</p> <p>【生徒指導】</p> <p>○教職員においては、10項目中9項目で肯定感が増加し、ほぼ全ての項目が90~100%程度の高い評価となっている。「生活規律や学習規律などの基本的習慣の確立」はほぼ100%であり、ほぼ全教職員が学校の変化を感じていることがわかる。</p> <p>○生徒においては8項目中7項目で肯定感が増加し、平均も3.8%増加した。特に「基本的習慣の確立」、「指導に対する納得」の項目が大きく増加しており、先生方の粘り強い日々の取組みの積み重ねが反映されている。</p> <p>【自主活動】</p> <p>○生徒と教職員は様々な工夫を凝らしながら学校行事に取り組み、生徒たちの「自分たちの意見が反映されている」「学校行事は工夫されている」の評価においては10~15ポイントも上昇した。生徒自身が自主的に活動し、成果を出すことができたという自己肯定感の表れであると考えられる。</p> <p>【進路指導】</p> <p>○生徒の肯定感は全ての項目5%以上増加している。今後も、保護者と連携して丁寧な進路指導を行っていく。</p> <p>○教職員の肯定感も大幅に向上し、ほぼ全ての項目で5ポイント以上増加、「熱心な指導」「系統的なキャリア教育」においては12~16ポイント程度の増加が見られる。これは、教職員の熱心な指導が就職内定率の増加や進路未決定率の減少などにつながっていることに要因がある。</p>	<p>第1回 (8/31)</p> <p>○本校の現状と今後の取組みについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校全体に落ち着きを感じられ、生徒が自覚を持って高校生活を送る姿が伝わった。 ・遅刻、懲戒件数が大きく減少し、学習に向かう環境が整ってきていることを感じる。 ・クラブ加入率が上昇することを期待する。・進路未内定者を減らす指導が必要である。 <p>○各学年、分掌の取組みについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校HPの充実と、そこからの情報発信は大きな力(学校の発展)となる。 <p>第2回 (11/18)</p> <p>○教育相談体制について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SSWの導入について、児童相談所や子ども家庭センターなどと役割分担および情報共有をしっかりと行い、一人でも一家族でも絶対に見捨てないという姿勢が大切である。 <p>○進路指導について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職試験の合格率については、たいへんな状況の中よく頑張っていると思う。 <p>○広報活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校説明会などは、来校者が納得した感触を持って帰られるようにすることが大切。 ・子どもを大事にしていることを「見える化」していくことが大切。 ・この学校の様々な特色を生かして頑張してほしい。 <p>○授業見学の感想などについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒がきちんと授業を受ける姿勢はできているなど感じた。 ・生徒作品を見たが、レベルが高いと感じた。 ・「産業社会と人間」の授業の様子を見学したが、この学校は仕事のことを考えるきっかけがたくさんあって良いと思った。 ・系統立てたキャリア教育について、この学校ではかなりできていると感じる。 <p>第3回 (2/10)</p> <p>○本校の今年度の取組みについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健関係においては、感染経路を断ち、子どもたちの健康状態を保つことができている。これまで陽性者を出すことがなかったことは素晴らしいことである。 ・大変な状況の中で、様々な工夫をしながら丁寧に乗り切ってくれたと実感する。 ・進路指導などで、多様な子どもたちへのきめ細かな指導を行い、実績を出したということは素晴らしいと思う。 <p>○学校経営計画及び学校評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域との連携はとても大切なこと。社会的要請があることで活動することが生徒の成長を發揮させる。 ・PTA活動について、社会見学やその他の行事などを開催するなど、PTA委員以外の保護者にも積極的に参加してもらいたい。保護者が学校に来てもらいやすい取組みをして行けたらよい。 ・キャリア教育の形は、本来の形になってきていると考える。総合学科としてのきめ細かい指導をされているということで、現在の形を大事にしたら良いと思う。 ・SSWも多角的に取り組んでおり、これらを進めて充実した教育活動を行っていただけたらと考える。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 生徒が学ぶ喜びと学ぶ力を高め、希望する進路を実現する力を育成する	<p>(1) 魅力ある系列・授業で生徒自身の将来の可能性との出会い</p> <p>(2) 入学から卒業まで3年間を見越したキャリア教育の実践</p>	<p>ア 総合学科の特色を活かした魅力ある授業づくりで生徒の学習意欲、学ぶ力の向上と進路実現へ向けての学力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 各教科や7つの系列のさらなる特性を生かした取組みや授業において地域貢献や授業での外部講師等の活用など魅力ある総合学科の充実をおこなう。 「探究」等の生徒の学びの成果を発表する機会を充実させる。 <p>イ 系列での取組みをホームページ等でリアルタイムで発信する</p> <p>①中退率の減少</p> <p>ア 教育相談委員会、SSW 委員会を中心に中退防止の視点を加え、学年との連携を行う。スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーを活用した教育相談体制の効果的な運用。</p> <p>イ 家庭との連絡、家庭訪問の状況、家庭状況の把握等を丁寧に行い、社会福祉施設等の関係機関とも連携も行う。</p> <p>ウ 生徒の出身中学校との連携を強化し生徒支援の助言を得る。</p> <p>②進路未決定者の減少と就職決定者の増加</p> <p>ア 進路指導部と学年、系列で連携した入学から卒業までを見越したキャリア教育を行っていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1年次より、各分野の講師を招いての講演会を開催し、生徒の進路意識を高めていく。また、1年次は産業社会と人間で、前期のガイダンス指導を徹底し系列選択のミスマッチをなくす。後期の系列別授業の強化を行い、2年次以降の系列での学習と目標とする進路のマッチングを行っていく。 2年次では、インターンシップ、オープンキャンパスへの積極的な参加への推進を行い、進路実現へのモチベーションを向上させる。系列の学習内容を大学・専門学校など学校外の資源を十分に活用しながら充実させる。 3年次では、進路指導部と系列が連携した進路指導・就職指導を行い、面接指導・応募前職場見学参加指導を充実させ進路実現の実績を向上させる。 <p>③大学・短期大学の合格者輩出</p> <p>ア 指定校推薦、AO 入試等きめ細かな進学情報の提供を活発に行う。</p> <p>イ 保護者向けの進学説明会を実施し、経済的な面を含めて、大学進学に向けて家庭の協力を得られるようにする。</p> <p>ウ、長期休業中は、講習を開催する。</p>	<p>ア 学校教育自己診断の全般（学校に行くのが楽しい、この学校に入学してよかった等の項目）が 60%以上を維持。（R1：64.2%） 生徒向け学校教育自己診断の学習指導の肯定 60%以上の維持 （R1：65.8%）</p> <p>① 中退率の減少 中退率の減少 2.0%未満 （R1：2.5%）</p> <p>②進路未決定者の減少と就職決定者の増加</p> <ul style="list-style-type: none"> 進路未決定者の割合 7.0%未満を維持 （R1:9.6%） 就職内定率 95%以上 （R1:100%） インターンシップ参加者数の推進 （R1:38人） <p>③大学・短期大学の合格者輩出</p> <p>ア、イ 大学合格実績合格者輩出</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学進学希望者へのきめ細かい進路情報の提供で、希望大学への進学実現。 保護者向け進路説明会数 （R1：3回） <p>ウ 夏期・冬季講習 30名以上の参加 （R1：32名）</p>	<p>ア 学校教育自己診断（生徒）の全般が 69.2%で 5.0P 増加した。（◎） 学校教育自己診断（生徒）の学習指導が 69.2%で 3.4P 増加した（○）</p> <p>「入学してよかった」「学校で鍛えられている、自分のためになっている、学校（先生）を信頼している」が大幅に向上しており、日々の教員の生徒指導、学習指導への取り組みが生徒の学校への信頼に繋がっていると考えられる。（◎）</p> <p>① 中退率は 1.0%であった。（○）</p> <p>ア 教育相談委員会を 12 回、SSW 委員会を 13 回開催するなど、教育相談体制を強化（◎）</p> <p>ウ 出前授業 2 回、中学校での学校説明会 1 回（○） 13 校 14 名の中学校教員を招いた授業公開および情報交換会を開催し、生徒支援に向けた活発な情報交換を実施（◎）</p> <p>② 進路未決定者の 5.9%に減少（○） 就職内定率は 100%（◎）</p> <p>ア 学校教育自己診断（生徒）の進路指導が全ての項目で 5.0P 以上増加、全体で 7.2P 増加した（◎）</p> <p>生徒を取り巻く就職および進学状況が大きく変化する中、進路指導部をはじめ学年団の教員の熱心な面接指導・学習指導・応募前職場見学参加指導等の成果が生徒の肯定感につながっている。（◎）</p> <p>③ ア、イ大学の合格実績（○）</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学進学希望者への進路情報の提供で、希望大学への進学を実現した。（○） 保護者向け進路説明会：2回開催（○）

府立枚岡樟風高等学校

<p>2 豊かな心と人権意識を身につけ、将来、社会や地域に貢献できる生徒を育成する</p>	<p>(1) 公共心と規律性を備えた樟風生を育てる。</p> <p>(2) 生徒による学校の活性化で生徒の愛校心の向上</p> <p>(3) 地域連携・地域貢献で生徒の自己有用感、自己効力感の育成</p> <p>(4) 人権教育の更なる充実</p> <p>(5) 教育相談活動の充実</p>	<p>(1) 授業規律、欠席・遅刻の減少、服装・頭髪指導・あいさつ</p> <p>ア 生徒、教職員による挨拶励行運動で「あいさつの樟風生」の気風をつくるとともに、生徒の学校生活への規範意識を育む。</p> <p>イ 登校指導の充実や遅刻過多者への早朝指導及び放課後指導を引き続き徹底し、遅刻者を減少させる。</p> <p>ウ 問題事象について事例検討会を開催し、問題事象への対応方法や指導方針に関して教職員全体の共有化を図る。</p> <p>① クラス活動の活性化</p> <p>ア 年間ホームルーム計画を作成し、ホームルーム活動を活性化させる。</p> <p>イ 遠足・体育祭・文化祭という行事を中心に担任間の連携を強化し、クラス活動の活性化を図る。</p> <p>② 生徒会活動の活性化</p> <p>ア 体育祭・文化祭・学校説明会などで生徒会の役割を増やし、生徒会の強化を行う。</p> <p>イ 体育祭や文化祭等の学校行事を一層活性化して、生徒の学校行事における自己達成感を高める。</p> <p>ウ 挨拶運動、生徒会通信の発行等を恒常的にを行い、生徒会活動の活性化を行う。</p> <p>エ 生徒会が中心となって「生徒による学校活性化プロジェクト」を創立20周年の取り組みとして行う</p> <p>③ クラブ活動の活性化</p> <p>ア クラブ活動に関する情報の発信や体験入部等の工夫を通じて1年生の新規加入はもちろん年度途中の入部者を増やすことで、加入率の増加をめざす。</p> <p>系列での授業やクラブ活動・生徒会の活動を通じて積極的に地域との交流や連携・貢献を行う中で、立案や発表など生徒の社会人基礎力を醸造するとともに、地域から感謝、期待される中で自己有用感・自己効力感を高める。</p> <p>ア 地元中学校区地域教育協議会等との連携を深め、秋の地域交流の企画に積極的に参加する。</p> <p>イ 各系列の取り組みを中心に地域子育て支援センターや近隣の幼稚園・保育所、地域商店街等との交流を促進し、地域への貢献を果たす。</p> <p>ア 人権HR計画に基づいて、障がい者理解、同和問題や在日外国人問題、新しい人権問題などを人権HRで扱い、生徒の人権意識を高める。</p> <p>ア 教育相談委員会、SSW委員会と学年の連携による一層の生徒の教育相談活動を推進</p> <p>イ 教育相談委員会と人権教育推進委員会、いじめ防止委員会との連携によるいじめ防止に対する取組みの一層の充実を図る。</p>	<p>(1) 授業規律、欠席・遅刻の減少、服装・頭髪指導・あいさつ</p> <p>ア～ウ、</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒向け学校教育自己診断「授業は規律正しく行われていると思う」の肯定感の70%以上維持 (R1:78.1%) <p>① クラス活動の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒向け学校教育自己診断「クラス活動は活発である」の肯定感の上昇 (R1:60.8%) <p>② 生徒会活動の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒向け学校教育自己診断「生徒会活動は活発である」の肯定感の上昇 (R1:51.0%) <p>③ クラブ活動の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> 加入率50%以上 (R1:42.0%) 生徒向け学校教育自己診断「部活動は活発である」の肯定感の上昇 (R1:67.4%) <p>系列やクラブ・生徒会で地域貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒向け学校教育自己診断の地域連携の項目の肯定感の上昇 (R1:51.2%) <p>ア 人権教育の更なる充実 学校教育自己診断の人権教育項目の肯定感平均の70%以上の維持 (R1:75.3%)</p> <p>ア 毎月スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーも交えた教育相談委員会の開催</p> <p>イ いじめ防止委員会の定例化(学期1回の開催)</p> <p>ウ いじめアンケートの年2回の実施</p>	<p>(1) 授業規律について全く問題なく生徒たちの学習環境は非常に整っている。頭髪、服装違反もほとんどなく、遅刻・欠席者数も年々減少し基本的生活習慣が確立している。懲戒件数も着実に減少している。(○)</p> <p>ア～ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒向け学校教育自己診断「授業は規律正しく行われていると思う」の肯定感 4.3P 増加して 82.5% (○) 遅刻者数は910人 (○) 生徒向け学校教育自己診断「先生はいろんな問題を見逃さず対応してくれる」の肯定感 7.3P 増加して 59.5%、「先生の指導には納得できる」の肯定感 9.6P 増加して 63.0%であった。(◎) <p>① ア～ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒向け学校教育自己診断「クラス活動は活発である」の肯定感 1.3P 増加して 62.1%であった。(○)「学校行事の運営に、生徒の意見が反映されている」の肯定感 14.3P 増加して 58.3%、「体育祭・文化祭などの学校行事は、楽しく行えるように工夫されている」の肯定感 10.4P 増加して 62.3%であった。 生徒向け学校教育自己診断「生徒会活動は活発である」の肯定感 7.5P 増加して 58.5%であった。(◎) <p>様々な学校行事において制限されることとなったが、教員と生徒が十分に話し合い、生徒会を中心として出来ることを模索しながら行事を一から作り上げたことが、生徒の肯定感の大幅増につながった。この経験を今後のクラス活動や学校行事に生かしていきたい(◎)</p> <p>③ 情報発信や体験入部等の工夫を行ったが、部活動加入率は 2.9P 減少して 39.1%であった。(△)</p> <p>生徒向け学校教育自己診断「部活動は活発である」の肯定感 1.0P 増加して、68.3%であった。(○)</p> <p>例年通りの部活動紹介や体験入部を実施できなかったが、学校再開後の生徒会による情報発信や体験入部等の工夫や各部活動の熱心な活動により、例年より減少したものの多くの新入生が部活動に参加し、様々な活動制限が設けられている中でも目的意識を持って取り組んでいる。(○)</p> <p>(3) 地域との連携については、コロナ禍において様々な制限があり、生徒向け学校教育自己診断の地域連携の項目の肯定感 1.9P 減少して 49.3%であったが、地域連携をテーマとする部活動や系列・科目において担当教員と生徒が出来ることを模索しながら様々な工夫を凝らしたことで、生徒の自己有用感・自己効力感を十分に醸成できた。(○)</p> <p>ア 生徒向け学校教育自己診断の人権教育の項目の肯定感 3.1P 増加して、78.5%であった。(○)</p> <p>ア 教育相談委員会は12回、SSW委員会は13回開催(◎)</p> <p>さらに、教育相談・SSW合同会議を7回、教育相談・SSW報告会を4回、ケース会議を15回開催するなど充実した教育相談活動を実施(◎)</p> <p>イ、ウ</p> <p>アの各種委員会においても、アンケート結果や教育相談に関する情報共有を密にすることで、いじめ事象に早期に対応し、未然に防止することができる体制を強化することができた。(○)</p>
---	---	--	--	---

府立枚岡樟風高等学校

3 共生推進教室を軸に「共に学び、共に育つ」インクルーシブ教育を実践する	(1) 共生推進教室でインクルーシブ教育を実践する	○「ともに学び、ともに育つ」インクルーシブ教育を実践 ア 共生推進教室生徒の成長を促すことで、併せて、総合学科生徒の人権教育を推進する。 イ 新入生のクラス開き・学年開きで共生推進教室の生徒や配慮を要する生徒の紹介を行う。 ウ 日常的なクラス活動・クラブ活動・授業などで、配慮を要する生徒と共に学校生活を送る経験を積み、互いの理解の促進を図る。	ア～ウ。 ・ 生徒向け学校教育自己診断の共生推進項目の上昇 (R1:66.5%) ・ 共生推進教室の一斉授業の肯定感の上昇 (R1:100%)	(1) インクルーシブ教育の実践 ア～ウ 生徒向け学校教育自己診断の共生推進項目の肯定感平均は69.6%で3.1P増加した。(○) ・ 共生推進教室3年生の企業就労は100%であった。(◎) ・ 共生推進教室の一斉授業の肯定感は、100%であった。(◎)
4 学校と保護者・地域が連携し、ともに生徒の成長を支援する開かれた学校として府民から信頼される学校づくりを行う	(1) 家庭・保護者との連携 (2) 校内組織の連携と情報発信力の強化	(1) 学校の情報を発信し、PTA活動や学校行事への保護者の参画率を高める。 ア 授業参観への参画率を高める。 イ 体育祭や文化祭など、学校行事への参画率を高める。 ウ PTA活動への参画率を高める。 (2) 校内組織の連携と情報発信力の強化 ア ホームページ、「樟風ブログ」の充実、中高連携や学校説明会などの広報関係に力を入れ、学校情報を更に発信し地域から信頼される学校をめざす。 イ 保護者メールの加入率の増加…令和4年には95%をめざす。学校説明会、出前授業で学校の取組情報の発信	(1) 保護者の参画率の向上 ア～ウ ・ 保護者向け学校教育自己診断において、参画に関する肯定感の上昇 (R1:52.7%) ・ 学校教育自己診断の保護者提出率の上昇 (R1:57.3%) (2) 校内組織の連携と情報発信力の強化 ア、イ 学校ホームページの充実と保護者学校メーリングリストの保護者加入書の増加 (R1:70.0%) 1月現在	ア～ウ コロナ禍のためPTA関係の各種行事が実施できず、保護者向け学校教育自己診断の参画の肯定感平均は46.1%で6.6P減少した。(一) ・ 学校教育自己診断の保護者提出率は、78.4%で21.1P増加した。(◎) ア 学校ホームページを活用し生徒・保護者・地域・中学生などに向けた情報発信を活発に行った。学校ブログを開設し、系列の授業や、部活動の紹介、緊急時の連絡などを積極的に行った。(○) イ 保護者メールの加入率は90%を超えた。(◎)
5 教員の働き方改革について	(1) 全校一斉退庁日・ノークラブデーの明確化 (2) 時間外勤務の縮減と学校閉庁日の設定	ア 本校では毎水曜日が全校一斉退庁日となっている。緊急時の対応以外は午後7時までに退庁する。 イ 部活動を行わない日をクラブ毎に週1回設定をしている。各部活動のノークラブデーを掲示するなど明確化に努める。 ウ 学校閉庁日の設定	ア 全校一斉退庁日の徹底実施 イ 「大阪府部活動のあり方に関する方針」の順守 ウ 学校閉庁日の設定	・ 校内放送や校内を回り声掛けを実施するなど、帰宅を促した。(○) ・ 学校閉庁日は、8月14日～16日、12月29日～31日で設定した。(○)